

健やかに生き、安らかな最期を

Living Will

リビング・ウイル

2017年
4月発行

No. 165

Living Will

No. 165 2017年4月発行

発行 一般財団法人日本尊厳死協会

編集 協会会報編集室

デザイン FROG KING STUDIO

印刷 JPビズメール株式会社

特集

10年後の協会を考える

より求められる

協会の役割

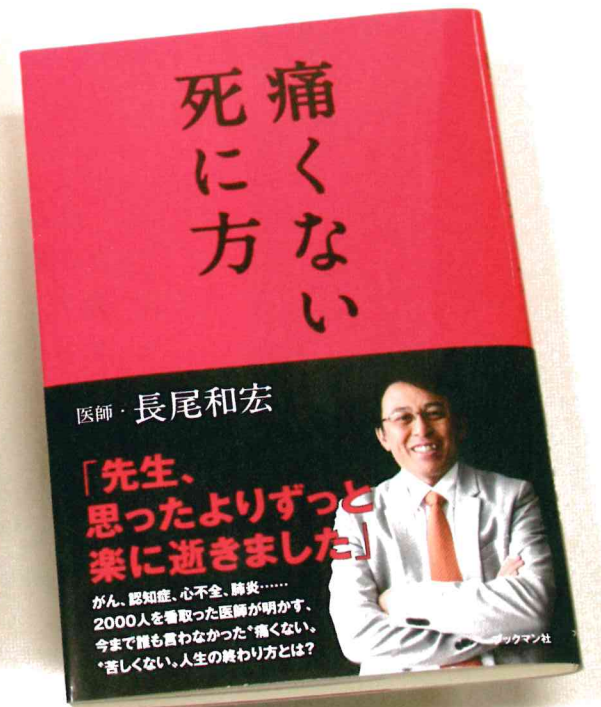
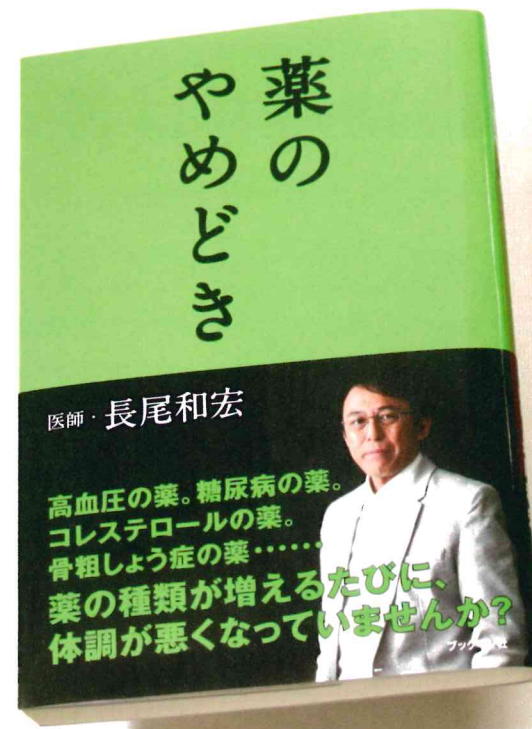
○若手役員座談会

○受容協力医師制度の展望

○秋野暢子さんインタビュー

日本尊厳死協会が **お勧めする** 2冊

お求めは書店で



2000人の最期を看取った
医師だから言えること。

『痛くない死に方』
長尾和宏著

●がん終末期の場合 ●臓器不全症の場合
●認知症終末期の場合 ●人工透析の場合
●老衰の場合 ●安楽死の真実……今まで
誰も言わなかった「痛くない、*苦しめない、
いゝ人生の終わり方とは?」日本尊厳死協
会の副理事長でもある長尾医師が、「死」
と「痛み」について具体的に語り尽す。
(ブックマン社、1080円税込)

あなたにとって
本当に必要な薬とは?

『薬のやめどき』
長尾和宏著

高血圧・糖尿病・骨粗しょう症の薬、睡眠
薬、抗不安薬、胃腸薬、抗生物質……。薬
の種類が増えるごとに健康寿命から遠
ざかる。5種類以上の薬を飲んでいる人
は是非読んでみてほしい。長尾医師。
「薬のやめどき」から、長生きと健康につ
いて、わかりやすく指南した本。
(ブックマン社、1404円税込)

日本尊厳死協会の出版案内

新・私が決める尊厳死 「不治かつ末期」の具体的提案

編著・発行 日本尊厳死協会 発売 中日新聞社



人生の最期で迷わないために
「尊厳ある生」を望むあなたに!

専門医が「不治かつ末期」を分かりやすく説明します。

- がんの末期 人工的な栄養・水分の補給は、かえって苦しみを増す?
- 持続的植物状態 延命措置の事前意思表示がない場合、医師や家族はどうしたら?
- 腎不全 「余命」宣告後に、医師から透析療法を勧められたら?
- 救急医療 日本救急医学会が示す「終末期」の判断とは?
- 認知症 「不治かつ末期」をどう考える、延命措置は?
- 老衰 天寿を全うする「老衰死」。平穏な死を妨げるものは何か?

お求めは
協会事務局で

1100円(税・送料込)。お名前、住所、購入希望本を明記のうえ、代金を現金書留または定額小為替か
切手相当額を同封して協会事務局(〒113-0033 東京都文京区本郷2-27-8 太陽館ビル501)宛に郵送してください。

〈10年後の協会〉を見据えて

社会変化に対応できる活動を議論し、進むべき道を定めたい

理事長

岩尾 總一郎

（財）日本尊厳死協会は、2026年に創立50周年を迎える。協会が歩む今後10年間は、わが国が「超高齢多死」社会の頂点に向かう道程とも重なり、終末期医療をめぐる状況は大きく変化すると思われる。私たちも活動の発展を期して進むべき道を議論し、今後の方向を定めたい。

協会はリビングウイル（以下LW）の発行と普及に40年の活動実績をもつとはいえ、いまLWのあり方、新入会員数の減少など幾つかの問題に直面している。

若手の議論に意欲感じた

これらを克服し、協会の未来を展望する手がかりとして昨年暮れ、佐賀市で「10年後の協会」を考える

座談会」を開き、意見をお聞きした。

九州支部の佐賀県と長崎県で活動する若手役員から忌憚のない意見と提言が寄せられた。将来も第一線での活動が期待される方々で、座談会の概要は会報（4ページから）で紹介している。ここでは「LWをめぐる状況」と「組織のあり方特に公益法人化」についての取り組みを述べておきたい。

近年、協会会員になること、LWを所持することのメリットを問う方が増えている。それは高齢者の増加にもかかわらず、協会への新規入会者の減少に表れている。

これはLWと趣旨の事前指示書が病院入院時の医療計画に組み込まれ、また地域医師会や自治体が独自の事前指示書を配布するな



ど、LWが社会的に認知されてきたことにも関連している。

LW改定に着手したい

協会は日本で最も歴史の長い、最大のLW発行団体だが、そこに安住できない新しい状況が生まれている。

LWについては、患者の意思決定を医療チームが支援する取り組み・ACP（7ページ参照）が近年、わが国でも「新しい理念」として病院などで広まってきている。医療代理人を置き、病態に合わせた書き換えができる。それに比べて包括的指示でシンプルな書式の協会LWが「古い」と指摘されるようになった。

協会は一昨年、「協会発行のL

Wに関する検討会報告書」を公表し、問題点を提起した。LW作成時の証人や家族・親族を含む代理人の選任について明確にすべき時期にきており、現行LWの改定に着手する時期と考えている。

またネット社会の到来で、現行のLW登録管理の事務手続きは大幅に見直されるだろう。ホームページ上で会員登録、ネット上での年会費支払い、住所変更などができるようになれば、入会希望者、会員の方の利便性は飛躍的に高まると思う。

公益法人化の実現に全力

協会は組織の発展と事業展開の広がり求めて「公益法人化」をめざしてきた。しかし、内閣府から昨年12月、協会の「公益認定」申請は却下された。

私たちは40年間にわたるLW普及運動を「公益」と考えて活動してきた。不認定は公の場で協会のあり方が問われかねない事態である。次の10年に向けたLW普及活動を確実に進めるためにも、公益法人化実現には全力を傾けたい。

協会への応援メッセージ

「尊厳ある死」という死生観へ

作家 柳田 邦男

日本尊厳死協会がリビング・ウイルを医療の現場に普及させた功績は大きい。90年代はじめの東海大学安楽死事件がきっかけとなって、会員が増えた頃から、「自分もリビング・ウイルを持たなければ」と意識する人が増えたと記憶する。

その関心事は、死が避けられなくなり、意識が朦朧となった時、本人の意思に関係なく一分一秒で

も生命の維持をはかろうとする当時の医療の姿勢（無理な延命処置）に翻弄されることなく、痛み苦しみのない穏やかな死を迎えられるようにしてほしいという点に焦点をあてたものだった。リビング・ウイルの中に記す要望事項は、具体的にはいろいろあるにしても、意思表示の具体的な内容は、そこに絞ったものの、まさに「尊厳死」の選択を示すものだ。

それはそれで重要なことなのだが、人間の死というものを考える時、穏やかな死という最期のかたちだけを穏やかにすればよいのかという疑問を私は持つ。人生を納得のいくかたちで締めくくるには、余命が何か月という単位か1〜2年かとかわかってからどう生きるかというもう一つの重要な課題があるはずだ。

これだけはやっておきたいと思うことを達成し、人生の最終章を納得のいくよりよいかたちにして

旅立つことを、私は「尊厳ある死」と呼んでいる。その達成のためには、医療側の対応も配慮が必要だろう。次の10年に向けて、日本尊厳死協会に望みたいのは、《「尊厳ある死」への決意》を、多くの人が文書に明示して持つ新しい死生観の文化を定着させる活動に取り組んでほしいということです。

意義増す

協会の存在

医師 石飛 幸三

人生はせいぜい百年、われわれは世代交代して土に還る。最期は否が応でも食べなくなる。それは体がもう食べ物を求めないからだ。食べないで眠る、そして永遠に眠る。それは「平穏死」、自然の摂理、神の恩寵なのだ。

それを人間の考える科学で、生きていく時間だけでも延ばそうとする。胃ろう、経静脈的栄養、それをしないことは罪だと思い、そして、

かえって苦しい最期を迎えさせる。この老衰に対する医療の倒錯した適応が問われる時代に入った。

医療、それは人間のためにある。単に命の時間を延ばすのではなく、むしろ生きている生活の質が大切なのだ。個人の生き方を他人が決めることはできない。本人の責任において選択する問題である。

今われわれに求められていることは、自分の一生の送り方を自らに問うことではないか。人生に先があるなら生きる試練を毅然として受け止めよう。乗り切る勇氣を持つとう。しかし、もう終わりの思ったら泰然として終焉を受け入れよう。それが尊厳ある一生だ。

国民が一人でも多く「自立した一生を送ろう」という運動、尊厳死協会にいま、多くが求められている。がんばれ！



「協会の10年後を考える」座談会から

「誰もがLWへ。」

より有益な組織で あり続けるために

日本尊厳死協会は2026年に創立50周年を迎える。終末期医療をめぐる状況が大きく変わるなかで、協会がより有益な組織であり続けるために、今後進むべき方向について若手役員の意見を聞いた。浮かび上がった論点を紹介する。

座談会は昨年12月23日、佐賀市の市民活動プラザで開かれた。九州支部の県組織「さが」が「ながさき」の役員が出席、会場外の東京、広島、徳島、松山をインターネットで結んで行われた(出席者は別掲)。「さが」の役員十数人が傍聴し、発言する場面もあった。

座談会では、座談会を導いて40年、一貫して啓発・普及に努めてきたが、会員数の停滞にみられるように多くの問題を抱え、協会はいま変わらなければならぬ時を迎えている。協会が有益な活動をし続けるためにも40代、50代の役員の意見をお聞きしたい」と挨拶した。組織、活動、LWのあり方についてさまざまな意見が出た。

組織について

「高齢、男性、医師に偏らない多様性で活動力発揮を」

満岡 聡(「さが」会長)

●市民運動団体は「多様性」に意味があるが、できるだけ多くの職種の人に関わると、それだけ活動の輪が広がる。

●各職種の専門集団になり過ぎていて。会員は大衆であり、草の根運動に近い方がいい。

●公益法人化は社会的信用度を高め、組織固めにもぜひ必要。寄付金、事業展開など資金強化にもつながる。

●尊厳死協会の名称は堅苦しくとつづきにくい。名前から活動も「死」に縛られている感だ。

●社会的認知度が高い「尊厳死」は捨てがたい。正式名称のほか親



座談会出席者(佐賀会場)

(写真の右から)

白髭 豊 九州支部「ながさき」会長、医師
満岡 聡 九州支部「さが」会長、医師
長尾和宏 副理事長、医師
鐘ヶ江寿美子 「さが」役員、医師
スカイプ参加者
正木文治 中国地方支部長、会社社長
守谷高志 四国支部理事・事務局長
寺嶋吉保 四国支部「徳島」代表、医師
安達俊郎 本部事務局長

しみやすい通称を考えたら。

●地方組織には支部ごとにバラつきがある。地域に密着した活動なら県単位組織が望ましく、それも活動費の裏打ちが必要になる。

協会の法人形態は「一般財団法人」で、現在目指している「公益法人化」はまだ内閣府の認証が得られていない。組織としては本部が総括的な活動を、9支部が講演会や会員らの集うサロンなど地域活動を展開する。支部活動の母体には歴史的経緯もあり、四国、九州支部だけに県組織があるほか、北海道支部に地域組織がある。

論点 組織のあり方では、組織運営や活動に携わる役員構成について「多様性」を求める声が出された。「さが」の役員19人は男女半々で、ほとんどが40代、50代という協会内でも特異な存在。

若手、多職種の「さが」社会との接点も広がる

3年前に就任した満岡会長は自ら人材開拓し、役員の職種は医療

従事者のほか言語聴覚士、在宅介護事業者、弁護士、英語通訳者、僧侶、記者、認知症と家族の会活動者、短大生など多士済々。この職種の多さはそのまま社会との接点の広さにつながっている。

座談会で「中学生の生と死への関心」を話したのは、佐賀県内の中学十数校で特別授業をする40歳になったばかりの僧侶だった。

論点 協会名称については関心が高く、ユニークな意見が出された。根っこに「死」という文字が入るネーミングに対する市民の反応がある。

**「死」に縛られる協会名
親しみやすい通称でも**

協会是一般財団法人になるとき(2015年)、「新名称で」と理事会で会名変更を議論した。しかし「リビングウイル」の名称を冠した既存団体もあり、そのままに協会が「尊厳死協会」という正式名称のほか、国民的な支持が集められる、親しみやすい通称を持つべきという意見も興味深かった。

普及活動について

「50歳になったら一度LWを考えよう、で現役世代を増やす」

鐘ヶ江寿美子(「さが」役員)

●50代が集まる同級会で協会が全く知られていなかった。社会の第一線に立つ世代への啓発が不十分。

●豪州では「50歳になったら一度LWを考えよう」と国が呼びかける。人生の折り返し点でもあり、インパクトがある。

●中学校授業の経験から若者は「生と死」に関心が高い。系統立てて教えるとすーっと入っていく。10年後、大人になる人だ。

●支部「サロン」事業では高齢時代を生きる話で盛り上がる。「死」だけでなく「高齢者の生き方」を事業目的に入れてもいい。

●協会の催しはいつも無料だが、有料の独立採算制があつていい。費用がかかっても価値ある催しなら発信力も大きい。

●よそでLWが無料配布されてい

るのに「会費2千円」とは勧めにくい。無料(可能な限り安く)なら会員は増える。

●運営資金は出版事業や寄附募集などで得る方法もあり、いろいろやった方がよい。

●ホームページから入会手続きができるなど会員登録がIT利用で容易にできるように。

●関連医学会、医療団体と共同セミナーを開催すれば公益性も高まり、異論の擦り合わせもできる。

●「認知症とLW」を考えるなら介護分野へのアプローチが大事。現在、ほとんどみられない。

●認知症カフェのように気軽に人が集う「カフェ」事業は協会への理解を広げるツールになる。

超高齢多死社会では、LW時代の到来すら予感されるのに、協会会員数は2012年をピークに毎年減り続ける。協会LWが尊厳死を求める唯一のツールで会員が自然に増えた時代は過去のものになった。新しい共感を呼ぶ発信を求めるびっくりアイデアも出た。

【論点】 LW啓発について2人から「50代」という話が出たのは興味深い偶然だった。

50代は、社会的に円熟しながら、人生の折り返し点に差ししかかった世代である。LWを意識するには遠いが、10年後には高齢世代の予備軍に入る。その世代が協会には欠落してきているデータがある。

実数も割合も50代世代が激減

現在、50代会員は3700人で全会員に占める割合は3%。手元の資料では2002年には1万人(10%)を数えたから、この世代の激減ぶりがわかる。会員の世代別構成(メモ)をみると高齢化が急激に進んでいるが、実数激減は説明がつかない不安材料である。

【論点】 「50代になったら一度、LWを…」は豪州の取り組み事例だが、座談会では共感する声が多かった。そこで浮かび上がるのは若者、50代、高齢世代と3世代にスポットをあてた活動方法である。

三世代別にスポット啓発活動ものを絞る

実際にLWを必要とする「高齢世代」へは短期的、やがてLWを考える「50代」には中期的、LWは遠い関心だが生と死を考える「若者世代」には長期的な視点で取り組む。現状は全世代に一律だが、3世代にそれぞれの絞った段階的な啓発活動が考えられる。

以前、小中学校で使える「尊厳死副読本」を協会で作成し、希望校に配布する案が話題になったことがある。

【論点】 会費制(年2千円)が会員増への足かせ、会員減の引き金になっているという指摘が幾つか聞かれた。LWが無料で入手できるようにになった社会で、有料は確かにハンディとなる。

会費制は足かせか資金集めは堂々と

それでは会費収入ゼロで年間約1億7000万円(2016年度予算ベース)の運営費をどう捻出

認知症700万人時代に医療代理人は欠かせない

医療代理人は、患者が衰えて意思決定ができなくなったとき「自分の代わりに判断してくれる人」。10年後の日本は高齢者の5人に1人(約700万人)が認知症にかかると推定される。総人口の5人に1人が75歳以上となるだけに、医療代理人はLWの完結を期すキーパーソンとみられている。

【論点】 もう一つの「ACP」は、意思決定をめぐる新しい取り組み「アドバンス・ケア・プランニング」を指す。

わが国では2011年に国立長寿医療研究センター(愛知県大府市)がACPを導入するなど幾つかの病院が取り入れている。また地域では、広島県地域医療保健対策協議会(県、県医師会、広島大学病院など)が導入、広島市安芸区などで展開されている。

ACP時代というが医師支援は実現可能か

するのか。運営資金面で考えられるのが協会の「公益法人化」だ。実現すれば、大々的に寄付が募れるし(寄付者への税額控除)、LWに関する公の委託事業収入も期待できる。

運営資金集めが公益化の目的では縛りが増え、協会の独立性を危ぶむ意見もあった。ただ、資金を得るのはLW推進運動のためだから、ネガティブに考える必要はないのではないかと意見も。

LWについて

「少なくとも

医療代理人を置き、意思決定支援のステップへ進もう」

白髭 豊(ながさき)会長

●宣言書は基本的に40年前のもの、時代にそぐわない。入会を勧めようにも「それはもう古いのではないか」という話になる。

●宣言書は内容的に具体性に欠ける部分もあり、時代にそぐわない。

限られた病院、地域内でのACP展開に対し、協会LWは広く国民を対象とするだけに課題も浮かぶ。特にLW作成(入会)時に医療側の支援がどういう形で可能なのか。国立長寿医療研究センターでは、患者と医師や看護師が1時間ほどの話し合いを1人2、3回実施するという。

協会の場合、もし、医師団体や病院団体と何らかの協力・連携関係を築ければ、可能性が膨らむ。またLW協力医師(約1500人)の協力を得て、都道府県単位での取り組みも考えられていい。

座談会を終えて

「これからも時代の先端を走り続ける協会を共に考えよう」

長尾和宏(協会副理事長、医師)

座談会を終え、長尾副理事長は次のように述べた。

尊厳死協会、40年の歴史のなかで、歩む道筋について地域活動の

●意思表示はLWだけでなく、ACP(メモ)の重要性が理解され、それが新しいとされている。

●大切なのはLW作成までの過程であり、その手段がACPと考える。その考えを取り入れた「協会型ACP」があつていい。

●医師会は患者の意思尊重でも実際の場面では「家族の同意」が必要としている。協会との整合性がとれていない。

●元気なときに将来の尊厳死を考えるなら現在の「ぼんやりした」の必要な。段階的でもいいなら具体的な話は病気になるってからできる。

宣言書について「古い」と「ACP」という言葉が随所に登場した。在宅医療や緩和医療に携わる医師からの発言だった。

現在の「尊厳死の宣言書」は1983年から「延命措置を望まない」3項目を宣言し、本人署名があるだけのLW。自己決定とその表明があれば良いという考えを40年間貫いている。2015年、協会LW検討会が「実効性を高め

第一線にある方々から意見を聞くのは初めてだろうと思う。LW普及で「時代の先端」を走り続けてきた協会が、自らの課題を露わにして議論することはガバナンスの利いた団体ということである。

会の進行としては3つの大きなテーマに分けたが、それぞれが独立したテーマではない。会費ゼロの意見は個別に出た出版事業で運営資金獲得、登録業務の簡素化とも連動する話である。忌憚のない意見を聞いて、これからも協会が時代の先端を走り続けることに確信がもてた。

構成・編集部 白井正夫

「メモ」

●会員の世代別構成 会員11万余の世代別構成を見ると、65歳以上は91%を占めている。75歳以上に限っても67%で、90歳以上者は1万人を超える。ここ数年の新入会時平均年齢は71・9歳。会員の平均年齢は77・9歳。

●ACP 将来の医療・ケアについて患者、家族と医療従事者が予め話し合う、意思決定支援の取り組み。1990年半ばから米国、カナダ、豪州の医療機関で広がった。話し合いで共に理解してゆく過程が重視される。



座談会を傍聴する「さが」役員ら

LW受容協力医師制度の展望

「協力医師」求められる時代に

協会の「LW受容協力医師」登録制度は会員にとり大きな支えだ。制度ができて20年余、登録医師は少しずつ増え1500人近いが、多い数ではない。終末期医療の状況が変化していくなかで、制度のさらなる充実も求められる。2人の受容医師に意見を聞いた。

「会員の希望に沿える制度へ」

弓野大医師

東京の弓野大医師は1年前、「協力医師」になった。学生、若者でにぎわうJR山手線高田馬場駅近くに4年前開院した「ゆみのハートクリニック」院長で、心臓の専門医。同クリニックでは在宅医療にも取り組んでいる。

弓野医師と協力医師の接点は協会の「ご遺族アンケート」。そこにLWを受け入れてくれた弓野医師の名前があり、協会が登録をお願いした。

弓野医師は在宅医療の訪問先で「会員の患者」と接することが何度かあった。クリニックでは初めて

の患者に「リビング・ウィル調査票」を渡し、医療の希望を聞いている。ある日、高齢の女性患者から「私は尊厳死協会に入っているから、わかっている」と言われた。以前、勤めていた大学病院では経験のないことだった。

協会への会員の信頼高い 活動知り医師は登録した

弓野医師は「LWを持つ患者がいると知り、うれしかった」という。その後も診療で会員と出会うことがあり、話をするうちに感じたことがある。「会員さんの意識が非常



に高く、尊厳死協会に対する信頼が大きいことには感心しました」。協会の活動を知った弓野医師は協力医師を引き受け、同僚医師にも話したら2人が登録した。

「患者さんが希望されるような最期を過ごせるよう幅広い支援を惜しまない」のがLW受容の精神だと弓野医師は考える。患者に必要なのは医師だけでなく、看護師、介護職員、薬剤師、福祉職員などの「幅広い」支えである。そのなかで果たす医師としての務めは協

力医師のあり方と通じ合う。

LW、終末期医療というと「がん」の病態を想定しがちだが、終末期心不全、高齢者の呼吸器疾患など「非がん」系のケースが増えてきている。

これから「多死社会」に入ると病院病床には限りがあるから、地域全体で患者を支える体制が必要で、「最期を家で」が選択肢となる。患者の意識も変わりつつあり、在宅医療が増えてきている。

同クリニックでは昨年1年間、新しく在宅医療を受ける患者が急増した。ソーシャルワーカーの斎藤慶子さんによると、LW調査票の話をすると「私、もう決めています」という患者が10人に1人はいる。実際に3割ほどがLWを作成するという。

弓野医師は「私は患者さんが最期までその人らしい生活を送れるようサポートしたい。在宅医療は家での看取りが目的ではなく、結果として看取りがある」と話した。だから、LW協力医師が「看取り医師」とだけ見られることには抵抗がある。

協力医師制度ができてからの20年余でも医療は進歩し、医療ケアの幅は広がった。しかし協会の制度は発足当時のままである。

弓野医師は大胆に提案する。LW受容を組織でくくり、たとえば「LW協力医療機関」「LW協力介護施設」といった制度が今日的で、

「会員の希望に沿えるのでは」というのだ。組織が大きい病院は無理でも、診療所、医院、クリニックなら可能ではないかと。

「そうならば、待合室に『私たちは日本尊厳死協会のLW受容協力医療機関です』と掲示できるのですがね」

「患者と医師結ぶ活動を期待」

雨宮志門医師

東京・杉並区高井戸の住宅街に、社会福祉法人浴風会の福祉・医療施設が並ぶ広大な一角がある。特

養老人ホーム、軽費老人ホームなどで千人を超す高齢者が暮らすなかに浴風会病院（13科）がある。

浴風会は、関東大震災（大正12年）の被災老人の援護のために設立された。病院では施設内の高齢

者だけでなく一般外来患者も診ているが、伝統的に老年医学、老人医療に取り組んできた。

病院の認知症疾患医療センター、内科医長の雨宮志門医師は昨春秋、協会のLW受容協力医師に登録した。やはりご遺族アンケートがきっかけだった。

看取り医師の自覚が 高齢者医療には大事

「もう治療効果が見いだせない患者さんに、よりよい最期を迎えてもらうのが高齢者医療の大事な仕事と考えています」と、雨宮医師は明快だ。高齢者医療に取り組む

以上、看取り医師としての自覚を持つている。

浴風会病院に勤めて8年になるが、この間、数人の患者から「協会の会員である」と伝えられた。やぶから棒に言われるケースは少なく、外来で何回か診療して、お互いの理解が深まったところで「会員」話が出てくることが多い。その人のパーソナルヒストリーを解きほぐすなかで出てくると、自然に胸に響くものがあるという。

会員だからといって言う通りにするわけではない。医療方針を決定する要素は幾つかあるが、雨宮医師は「LWに明示された本人の意思を尊重することは大きな決定要素」と考えている。

認知症の専門医でもある。認知症800万人時代が予見され、LWを持つ人が意思能力を喪失した場合のLWの扱いが問題になる。雨宮医師は「元気なときに表明された意思が継続している」とみなして、家族と話し合い、合意点をみつけていくという。

そのためにも「会員さんが最期の迎え方やLWについて家族と話

し合い、理解してもらっておくことが大切になる」と力説した。だから「そこを会員さんに知ってもらうようにするのが協会の大きな役目」との注文が出た。

超高齢社会では高齢者医療の比重が飛躍的に高まり、しかもそこには意思能力減退という問題が付きます。LW受容医師になることは医師個人の姿勢である。だから協会も「医師待ち」でなく、患者と医師、医療機関をうまく結びつける方向での活動を期待する、と話した。

急増したが1500人

LW受容協力医師 協会が1995年から始めた登録制度で、協会LW「尊厳死の宣言書」の趣旨を理解し、会員の力になりたいと表明した医師。現在、1516人。会員は協会ホームページで医師リストが閲覧できる。

医師の7割が「LWの作成」に賛成厚労省調査）するなどLWを理解する医師の裾野は広いが、登録医師が増えないのが実情。それでも在宅療養支援診療所を中心に運動し、この2年間で約300人の医師が登録した。



2016年「ご遺族アンケート」結果 9割がLWは受け入れられた

安心して生き抜き、 家族はそれを支えることが 出来ました

LWは本人の希望をかなえるだけでなく、家族や周囲を悩みや悲しみから解放する。

「ご遺族アンケート」に寄せられた声を紹介します。



自分のことは二の次、三の次にして、周囲の希望を優先してきた優しい夫（79）でしたが、最

●実子が早世したり付き合いがなくなっていた義母（90）の最期を看取ったのは、長男の嫁である私でした。延命措置を希望しない義母の言葉を、私の立場では言い出しづらく、悩んでいましたが、LWがあつたお蔭で医師や親戚に伝えることが出来ました。（埼玉県）

●「口から食べられなくなったら終わり」と常々言っていた父（93）ですが、胃ろう、点滴、人

工呼吸器なし、という勇気ある決断を下さった医療チームのご理解とサポートで、最期まで人間らしく天寿を全うすることが出来て本望だったと思います。自らのLWを残しておいてくれたことで、家族として迷うことなく父の意思を尊重することが出来ました。（東京都）

期は自分の想い通りになって逝きました。今頃は空の上で母やお友達に迎えられ、賑やかに楽しんでいると思います。（大阪府）

騒ぎ立て、母や周囲を混乱に巻き込むようになりました。しかし、義母のLWを預かっていた医師や施設側は、冷静に対応してくれて、その結果、義母は穏やかに眠るよう旅立つことが出来ました。このカードと協会がなかったら、母の治療方針をめぐる、親族間で本当にひどい争いになっていたかもしれません。この1枚のカードは、ずっと傍にいて義母と一緒に過ご

LWには、
無理矢理生かされる
苦痛を避ける効果が
確かにあると思いました 息子

父が協会に入っている、
ということが

様々な局面での
判断基準になりました 長女

してきた嫁の私にとって、義母と私とを繋ぐものになっていったように思います。亡くなった義母に「ありがとうございました」と今、改めて伝えたいと思います。（埼玉県）

●常々、家族や周囲の方々に、協会のことを話していた夫（78）です。亡くなる前月に、ある趣味の会で「もう皆高齢なのだから、こういう会（尊厳死協会）があるから入っておいた方がいいよ」と話していたらしく、弔問に来られたその趣味の会の方々が驚いていました。脳梗塞を起こし、急なお別れとなりましたが、皆さん「いい最期だな」と言っておくれました。私も「あなたの希望通り、静かに生を終えられました。これで良かったんですね」と遺影に声をかけると、少し元気になります。（千葉県）

●自宅で倒れ、救急車で運ばれた病院で「心臓が止まっているので、これから処置する」と聞いてハッ

●「最期まで人間らしく生きたい」と言った夫に対し、「賢明な判断です」と支えてくれた医師に感謝 妻

他の病院でも協会の趣旨を理解して下さり、このカードのおかげで、先生方とスムーズにコミュニケーションをとることが出来ました。（東京都）

●なかなか言葉にまとまりませんが、父の時と紙（宣言書）一枚の違いで、母（79）はとても穏やかに最期を迎えられたと思います。（東京都）

でした。（京都府）

●ドイツ哲学の研究者であつた夫（88）が、風邪をきつかけに胸水

●6年前、母（92）が脳梗塞で倒れた際、母がLWを持っていることを知りながらも家族は治療を望み、入退院を重ねました。家族としては、頭ではLWの意味を分かっているつもりでしたが、いざその場面に直面すると、やはり延命を望む気持ちが強くなって、本人の希望に反する行動をとってしまったことを理解していただきたいと思っています。（愛媛県）

凛として自分の旅立ちを決めていた母を、
美しく、気高く、
素晴らしく誇りに思います

長女



リビング・ウイルが果たした役割は

協会では、亡くなられた会員のご遺族に協力して頂き、リビング・ウイル（LW）が役立ったかどうかをアンケート調査している。2016年は910人から回答をいただいた。

773人（85%）がLWを医療者に伝えていて【図1】、「LWは受け入れられましたか」との質問には、「十分受け入れられたと思う」が60%、「どちらかといえば受け入れられたと思う」は31%で、91%のご遺族がLWの医療的な効果を認めている。【図2】

今回は、「LWはご家族にとってどういう意味を持ったか」を伺うアンケートも実施した。複数回答で、一番多かったのは「本人の意思を実現出来た」（510人）、次に「医療方針を決定するに当たり、家族にとって迷いがなくなった」（494人）、さらに「医師とのコミュニケーションに役立った」（298人）、「LWを持つていることで本人が安心して暮らせた」（258人）だった。【図3】

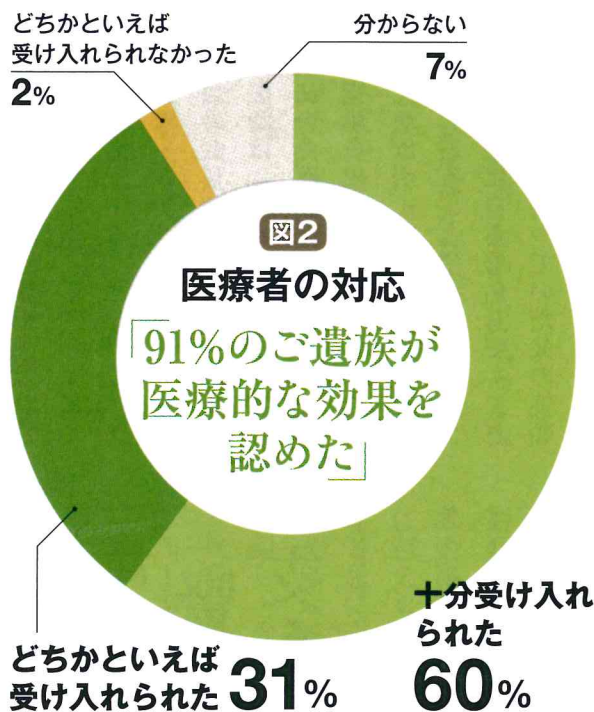
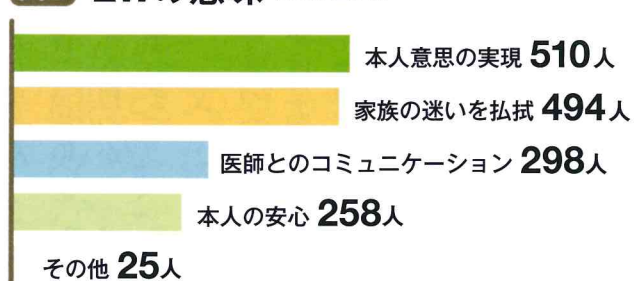


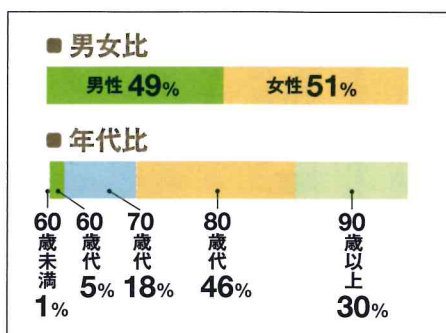
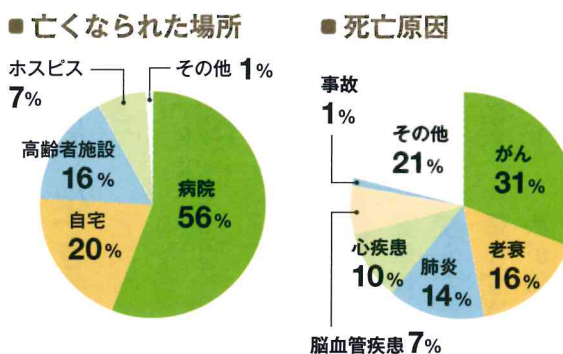
図3 LWの意味（複数回答）



「家族の96%はLWを聞いていた」



アンケートにご協力ありがとうございました



密着リポート

「介護難民」43万人がさ迷う「2025年問題」を危ぶむ

団塊世代がそろって75歳以上の高齢者になり、医療・介護の提供体制が追いつかなくなるとされる「2025年問題」。待ったなしで迫る今、老いゆく実父に寄り添いながら感じた、医療・介護への実感と不安を、密着リポートする。ジャーナリスト 辰濃哲郎

親父の老いで感じた夢のような在宅看取り

87歳になる親父の話だ。

かつて新聞記者をしていた親父に、父親らしいことをしてもらった記憶がない。休日でも取材に出かけて、ほとんど家にいなかったから顔を合わせる機会もない代わり、叱られることもなかった。

中学生のころ、そんな親父に初めて連れられていった映画がある。「沖縄決戦」。太平洋戦争末期、地上戦が繰り広げられた沖縄戦を描いた作品だ。脚を切断する場面や、集団自決の場面は強烈だった。以降、私にとって沖縄は「遊びでは行っ

てはならない場所」となり、戦後50年の取材まで訪ねたことがない。親父は記者時代、本土に復帰後の沖縄を歩き回って本も書いていたから、よほど好きだったのだろう。

83歳のころに大病を患って以降、脳こうそくの後遺症というパーキンソン症状に苦しんでいる。自然を愛して山を歩き回っていた親父の脚が、覚束なくなっていく。ヨチヨチ歩きでよく転倒する。物忘れもひどい。外出しても迷子になる「事件」もしばしば起こる。方向感覚がないのだという。

そのくせテレビのニュースを見

ていて、的を射た解説を独り放つ。安否法制について、自分の考えを理路整然と説く。沖縄の昔話も鮮明だ。

最近では20歳の女性が米軍の元軍属に殺害された事件に心を痛めていた。昨年、居ても立ってもいられなくなったらしい。

「沖縄に取材に行ってくる」おふくろは反対したが、一度言い出したなら聞く親父ではない。「野垂れ死んでも、本望だろうか行かせよう」

空港まで見送り、手荷物検査場で片手をあげる後姿を見送り、ただ無事を祈った。

現地でカメラをなくしたり、い

ただいた資料をどこかに置いてきてしまった。それでも元知事の大田昌秀氏から話を聞いてきたというから、たいしたものだ。3度に渡って出かけて行ったが、原稿は、なかなか進まない。「無理して書くことはないよ」と声を掛けると、「沖縄の人たちが、本を待っているんだ」

だが、容態は悪化する一方だ。本を読みながらすぐ寝入ってしまうのはまだよい。やかんを火にかけたまま忘れてしまう。着替えも思うようにできなくなってきた。

ついにおふくろが悲鳴を上げ始めた。親父と同じ87歳だ。心臓に持病を抱え、脚も不自由な身に、老老介護は負担が大きすぎた。

多いときは、日に何度も私に電話をして窮状を訴えてくる。

「もう、無理だよ」そのたびに様子を見に行く。そろそろ施設に入居させた方がいい時期なのかもしれない。おふくろは、施設への入居を望むが、親父はこの家を出る気はないらしい。住まいは都下の一戸建てだ。か

つての子ども部屋には、いくつもの本棚が増設されている。キャビネットに収まらない資料が床に何重にも積まれ、足の踏み場がない。おふくろにとっては迷惑な話だが、親父の生きてきた証が、この家には詰まっている。

地域包括支援センターに相談して週に2回、1時間ずつ介護員がやってくるようになった。もっと回数を増やしたいが、なかなか人練りがつかないらしい。もともと1時間程度の掃除だけでは、とてもおふくろの負担は減らない。

在宅ケアもままならない介護保険に、どれだけのお金を投じてきたのだろう。在宅での最期の看取りなど、夢の話のように思える。

高齢独居者の急増 施設・職員の不足深刻

世間では「2025年問題」がクローズアップされている。約650万人いる団塊世代が25年には75歳以上になり、医療・介護の提供体制が追いつかなくなる。

75歳以上の世帯は15年現在、882万世帯だが、25年には

1187万世帯で、その三分の一が独居と推計されている。現在は亡くなる人が年に130万人近いが、25年には154万人とされ、40年のピークには167万人という試算もある。

ここ数年、「地域包括ケア」という言葉をよく聞くようになった。14年に成立した医療介護総合確保推進法によると、高齢者が住



み慣れた地域で自立した生活を送れるように医療、介護、介護予防、住まいなどでの支援が包括的に確保される体制をこう呼んで推進していくのだという。

内閣府の調査でも、75歳以上の56%が自宅で最期を迎えたいと思っているのだから、在宅介護を模索するのはごく自然のことなのだろう。

だが、その展望は必ずしも明るいものではない。そう。15年に有識者会議である日本創成会議がショッキングな推計値を公表した。介護施設整備が進まないと25年には、43万人が施設に入れない「介護難民」になるというのだ。

介護保険制度がスタートした2000年には55万人だった介護職員は、13年には171万人に達した。15年に厚労省は、各都道府県がまとめた受給推計をもとに「2025年に向けた介

護人材にかかる受給推計」を公表した。25年には253万人の介護職員が必要だが、現状のまま推移すれば215万人の人材しか供給できないという。38万人の不足とは、絶望するに十分な数値だ。

総合的な確保対策を講じなければ、在宅介護はおろか、介護施設にさえ十分な人材が行き渡らない。一番大きな課題は、介護職員の賃金だと思う。厚労省の賃金構造基本統計調査によると、全産業の月額平均給与は約32万円だが、介護事業では約24万円に留まる。過酷な仕事をこなしても、賃金がこれほど低くては、人が集まらないのも頷ける。

また、介護で必ず問題になるのが認知症の問題だ。厚労省は12年現在の認知症患者を462万人と見積もっている。25年には予備軍を入れて700万人にも達するという。

「追い出し」促す と「とてん式医療」

認知症の高齢者を抱えた家族の負担は、実際に直面した者ではな

いとわからないとよく言われる。

こういった認知症患者を受け入れるための特別養護老人ホーム（特養）の絶対数が足りず、介護職員不足もあって入居待ち1年などざらだという。特養などの建設が爆発的に進まなければ、在宅の高齢者は増え続け、そのための介護体制が整わない限り、介護難民43万人という数値は現実の問題となっていく。

一方、厚労省は地域包括ケアシステムを掲げて医療改革に乗り出している。だが、その目論見は、あちこちでひずみを生んでいる。

小林美希氏は著書『ルポ看護の質』（岩波新書）で、このひずみを看護師らの証言として伝えている。

厚労省は14年の診療報酬改定で、「地域包括ケア病棟」を新設した。急性期から在宅に移る前のケアを主眼とした病棟で、高い点数がついている。その結果、急性期病棟から、地域包括ケア病棟への転換が進んでいる。

だが、これにはカラクリがある。急性期病棟の在院日数を短縮して、この地域包括ケア病棟など回

復期や慢性期の病院や病棟に患者を誘導する「追い出し策」なのだという。結果として、チューブにつなげたままの患者を手薄な看護体制の病院や病棟で看ることになり、現場の看護師の大きな負担になっている。

2025年対策の主眼は、急性期から回復期や慢性期の病院や病床へ、さらには在宅へと移す、ところてん式の誘導策なのだ。

ところが、その在宅医療の態勢も介護態勢もが追いつかず、悪循環におちいつているのが現状だ。そして最後は看取りの問題だ。

厚労省は、在宅での看取りに診療報酬を厚くしているが、在宅死は微増にとどまっている。

患者の家族にとって、死に際を受け入れることはなかなか難しい。呼吸が苦しうだったり、身体に異常が生じたりしたら、病院への搬送を希望するケースが多いからだ。

日々衰えていく自分と 闘っている親父の悔しさ

最後に親父の話。

昨年末、親父の病院に付き添ったときのことだ。午前中の検査を終えると、お腹が空いたようだ。

「この食堂、なかなか旨いんだ」ふたりで席につくと、やはり沖縄の話になる。

「米軍による犯罪被害者のリストがあつてな。ものすごい数の人が犠牲になっている」

少し意地悪な気持ちになった。「書き尽くされていることだよ」私の言葉が、親父のプライドをえぐり、火をつけた。急に机を叩いた。

「バカにするのか！」

自分の衰えを指摘されたと思つた父の目が、怒りに震えている。「帰る！」とフラフラと立ち上がる。

「親父、わかつたから座れよ」

両腕を押さえて座らせようとするとおさまらない。廊下に出た親父が転ぶ。抱き上げてソファに座らせる。あまりに軽くて、片腕で足りる。

「親父の気持ちはよくわかるから！」

「お前なんか、息子じゃない！」看護師たちが集まってきた。

「大丈夫ですか？」

それでも、親父はおさまらない。

「放せ！」

親父の肩を抱き寄せながら、「親父、わかつてるよ！」

私の声も1オクターブ上がっていく。続く私の言葉で、親父の体の力が抜けていくのがわかつた。

「親父、悔しいよな。俺も悔しいよ」

日々衰えていく自分が書けなくなるのではないかとという恐怖と闘っている親父の悔しさ。見ると、親父は泣いていた。

私も涙が止まらなくなる。遠巻きにしていた看護師たちも、涙を拭いながら立ち去っていく。

親父の手が私の右手に重なった。「恥ずかしいから、先に席に戻ってくれ」

私はオムライス。親父はカレーを無言で食べた。ずつとうつ向いて。

この3月、その親父とふたりで沖縄に行くことを決めた。親父の足跡をとものにたどり、そこで何を思い、どんな言葉を発するのか。それを記録しようと思っている。

俳優

秋野暢子さん

3度目の20歳にLW 母の思いを紡いで

秋野暢子さんは、亡き母に次いで今年1月、日本尊厳死協会の会員に。

その「思いのバトンタッチ」を東京の協会事務所で丹澤太良理事（関東甲信越支部長）がインタビューした。

構成／編集部 写真／八重樫信之

ことでした。終身会員として入会しました。

でも、ちょっと失敗しましてね。60歳の誕生日に入会と決めて、協会から案内書を取り寄せ、タイミングを合わせて手続きをしたのですが、届いた会員証をみたら入会日が誕生日の前日なんです。50歳代最後の日。それはそれで意味あることですね。

昨年秋、テレビ朝日の「徹子の部屋」に出演し、お母様が日本尊厳死協会の会員だったことを話されました。母の最期と娘の決断が会員の間でも話題になりました。

二十年以上も前、母が78歳、わたしが38歳のときです。母が体調を崩して入院した都内の病院から家に戻ったのですが、ハワイでの仕事が入ったので、大事をとって母にはその間入院してもらいました。仕事を終えて帰国し、成田空港から病院に電話したら「元氣よ」ということだったのですが、病院に行ったら「危篤」だということです。

病室に入ったら母は息が苦しそ

うにわたしを見て、「帰ってきたのね」という顔をしました。その後すぐに意識がフツとなって、医師に呼ばれ「このままではあと1時間です」と告げられました。「お母さんからは尊厳死協会のカードも見せていただいているので、延命をするかどうかご家族で決めてください」ということでした。

母の最期を託された 「38歳の決断」

父は十数年前に亡くなっており、兄は別に家庭を持ち、私たち家族が母と同居していました。「あと1時間」というのに「ちよっと、30分だけ待ってください」と頼みました。母の命を私が決めるのか、どうしたらよいのか…。

ひとり悩みましたが、母の顔を見つめながら最終的には意思を尊重すべきだと思いました。医師には「母の気持ちを大事にしたいので、そのままにしてあげてください」と伝えました。

その30分後に静かに息を引き取りました。

あきの・ようこ

1957年、大阪府生まれ。74年、NHK銀河テレビ小説でデビュー、翌年、NHK連続テレビ小説『おはようさん』でヒロイン役に抜擢される。ドラマ、映画のほかバラエティ番組、情報番組とマルチに活躍している。

尊厳死協会があまり知られていない時代にお母様はリビングウィル（LW）を作りました。会員だったことは知っていたのですか。

わたしが20歳代のときに「尊厳死協会に入ったから、不必要な延命はやめて…」と言われたことがあります。母はまだ60歳代で元氣

なのに、実感がつかめなまま、ああ、そうなのね、と思っただけでした。母は真剣でした。「いろいろ管を付けられて意識があるかないかわからないときは、あなたがきちんと医師に言ってね」と、念押しされました。

頑張り屋さんの母でした。大阪

の米屋の娘で豊かな暮らしのなかで育ち、結婚した父の商売（呉服商）もうまくいき、四十代半ばまでお米を炊いたこともなかったようです。わたしが5歳のときに父が商売上のことで財産の一切を失い、そこから母の苦勞が始まりました。

債権者の追いたてから逃れて父は私たちと離れて暮らし、母はお裁縫をしながら2人の子を育ててくれました。そんな貧乏のなかでも身なりもきちんと着物で通し、化粧も欠かさずにいました。母が入院したとき、誰も来ない病室でそこまですなくていいと思うのにきちんとした。昔の人はみんなそうだったのでしょうかね。

わたしの子ども時代は家は貧しかったのですが、小学校の学芸会に出たこともあって、先生の勧めで演劇活動が盛んな中・高校に進みました。父は仕事を、母は内職して頑張ってくれたんです。演劇部の活動にも取り組み、高校生のときに大阪のラジオドラマに出演したのがきっかけになって、この



芸能界という世界で仕事をする
ことになりました。

19歳になって舞台を東京に求め
て上京、母も後押ししてくれ、母
は月のうち3週は東京で、1週は
父と大阪でという往復の生活を続
けてくれました。

上京して5年目に父が亡くなり
ました。いま思いますと、そのあ
たりから自分の死のあり方を考え
ることがあったようで、そんな話
をされたことがあります。いまで
こそ人生80年、90年の時代ですが、
当時は60歳代でもそろそろ行く末
を考えたのでしょうか。

わたしは母が40歳のときの遅い
子でした。母は自分に何かあった
ときに娘を困らせてはいけな
いと、自分の死の迎え方を自分で選
択して尊厳死カードを残してくれ
たのではないのでしょうか。そう思
えてなりません。

私も会員である母を希望通りに
送りながら、あれで良かったかと
悩むことがありました。同じ経験
をした方は誰もがそう思うでしょ
うね。



母と初めてのハワイ旅行で

あれで良かったのか。もしか
しなうともっと生きられたのでは
ないか。あのときを思うと涙が
出て、悩んだ時期は確かにあり
ました。

母の気持ち理解でき 悩みもチェンジ

でも、わたしも年を取ってくる

と、母の気持ちを理解できるよ
うになりました。重くかぶさっ
ていた何かがだんだん変わって
きたんですね。

わたしの一人娘は36歳のとき
の子です。不思議なものでわが
家2組の親子関係の年齢差が似
かよっています。3年前、娘が
20歳にな

ったとき「わたしも母と同じ
思いだから、60歳になったら
尊厳死協会に入る」と伝えま
した。「うん、良かった」と言
っていましたが、まだリアリ
ティがないのだと思いますよ。
私もそうだったのですから。
でも、自分の人生の閉じ方は
自分で決めておくのは正しい
と思っています。人間、いつか
は死ぬのですから。LWを作
成するのは子に対する「子孝
行」で、LWに示された希望
を後押しするのが子の「親
孝行」と言っているんですが、
古いでしょうか。

備えあれば…です。それに
しても心身ともに健やかな感
じで羨ましいですね。

わたしも「死ぬまで元気で
いたい」とよく言うのですが、
そのために食事には気を付け
暴飲暴食しない、体と頭を動
かし、睡眠を十分に心がけて
います。食生活、運動、睡眠
が三本柱ですが、体と頭の
疲れのバランスがよいと睡
眠もよくなります。

ランニングもできるだけ続
けて

いますよ。

ところで昨年はプロ野球で
「カープ女子」が話題になり
ました。秋野さんはずっと以
前からの熱烈なカープファンと
評判です。

大阪育ちでもともと南海ファ
ンでした。ところが上京した
ら南海の試合の放送はないし、
新聞記事もほんの少しか。神
宮球場で試合を見ていて広島
カープを好きになったんです。

スカウトが選手を見つけて、
丁寧に育て、チームを作っ
ていく、そういうチームカラ
ーがいいですね。選手はチ
ームに愛情を持っている。そ
こも好き。

共感する「人を大事に」 「元祖カープ」の心意気

こういう仕事をしていますと選

手とも友達になる機会があり、
ファンになったということだ
すね。ミスター赤ヘルのコウ
ジさん（山本浩二）、鉄人キ
ヌさん（衣笠祥雄）が活躍し
ていたころからで、かわい
がっていたきました。炎の
ストッパー「ツダ君」（津田
恒実、故人）も元気がたっ
たし。昨年カープの試合は可
能な限り球場で観戦しました。

往年の名選手の名が出ましたが
交流の輪が続くのはすばら
しい。

わたし、人が好きなんです。
仕事柄、意識しないうちに人
を観察しているせいかもしれ
ません。人を見て、感じる。
人嫌いではダメですね。た
だ、その人の世界に土足で
入っていくには心がけてい
ます。

明るい秋野さんはこのところ
仕事の幅が広がっています。

今朝（2月13日）、NHK
テレビの情報番組「あさイチ」
に出演し、「老いた親の恋愛・
結婚」に

ついてコメントさせていただ
きました。今どきの話題で人
間ドラマがあり、楽しかった
ですね。この年になって自分
なりの意見が発信できるよう
になりましたね。そうそう、
（協会の「会員カード」を取
り出し）、わたし臓器移植
カードと一緒に持ち歩いてい
ます。母のことが話題になっ
たときには友人に見せてあげ
ます。「それな1に」、とい
うことになり、年代の近い
人は関心を示しますよ。

インタビューを終えて

秋野さんとは35年ほど前に、
私の仕事場でお目にかかった
ことがあります。全く変わら
ない風貌に感動しました。会
員だったお母様を看取られ
た際、随分悩まれたとのこと。
私も8年前、同様の経験を
しました。ご本人の意思を
大切に決断は決して間違っ
ていません。秋野さんのお
母様も私の母も満足してい
ることでしょう。

丹澤太良・協合理事、関東甲信越支部長
（公益社団法人日本馬術連盟理事）

LWを残す子孝行 希望に沿う親孝行



LW研究会で 議論を深めましょう

終末期医療の問題は患者対医療者の関係だけではなく、悩む家族、日常を支える介護者、全体に気を配るソーシャルワーカーらがそれぞれ役割を担い、課題を抱えています。違う立場の人が同じ土俵で議論できる場が「日本リビングウイル研究会」です。

LW研究会は2013年、尊厳死協会の枠を超えた活動として発足しました。これまで本部主催（東京会場）で5回（協会HPで動画閲覧できます）、また支部主催の地方会も各地で開かれました。各会場とも会員以外の多職種の方々の参加が多くなっています。

第6回研究会のテーマは「LW個別性への展開」です。意思確認の実際、代理人、海外の動きなどからLWのあり方を考えます。

東京会場はこれまでの政策研究大学院（六本木）から東京大学構内（本郷）に変わりました。新しい気分でご参加ください。

四国支部 第3回LW研究会四国地方会 家族との話し合いで 幸せな最期を

四国支部（野元正弘支部長）の第3回日本リビングウイル研究会四国地方会が2月12日（日）、高知県医師会と歯科医師会の後援で、「いい人生だった ありがとう」と終えるために「人生の最期をどこで、どのように」をテーマに、高知市の近森病院の会議室で開かれた。会場は補助椅子を出すほどの盛況、140人が参加した。

基調講演で、長尾和宏副理事長が、終末期医療の家族対応について、「終末期での自分の医療が家族の判断で決まっている」と現状を指摘、著名人の終末期医療の事例を動画を交えて語った。

「亡くなる方の中で、ピンピンころり、は5%で残りの95%の人に終末期がある」「終末期以降は過剰な医療行為はひかえて、緩和ケアを主体にした穏やかな治療を受けるのが尊厳死だ」と話した。

熱心に話を聞く参加者



パネルディスカッションでは、高知県医師会の岡林弘毅会長が日本医師会の見解として、法制化については「患者の権利が制約される懸念があり慎重に対応すべき」とし、「法制化の前にLWなど患者の意思を尊重した終末期医療の体制整備、厚労省や日医のガイドラインの実効的実施に向けて一層の努力を払うべき」と述べた。

また医師の立場から、あおぞら診療所の松本務医師が、看護・介護の立場から、訪問看護ステーション土佐の小松倫子所長が、患者の立場からは、公益社団法人高知県自治研究センターの筒井早智子理事長と上田雄一支部理事らが、それぞれの立場で発言した。

ご寄付ありがとうございました（敬称略）

我妻さち子	2,000	北村照子	3,000	田中寿美子	10,000	宮坂圭子	2,000
秋月定良	3,000	小杉 哲・敦子	1,000	種田和子	3,000	山本路子	1,000
伊藤宜之	5,000	小林鏡子	57,800	玉木光子	4,000	山本幸子	10,000
岩本利子	5,000	財前正昭	4,000	千畑敏造・朝子	10,000	四津谷良子	2,010
宇和田八重子	2,800	坂井義尚	3,000	永原文雄	2,000	匿名	60,000
大槻節子	5,000	笹森京子	10,000	丹羽うた子	30,000	匿名	4,000
大西俊子	1,000	佐藤アサ子	5,000	萩原 甫・久子	1,000	匿名	5,000
太田芳枝	5,000	白崎昭一・きん	10,000	比留間康允・緑	20,000	匿名	20,000
岡本友子	31,000	菅谷妙子	100,000	藤原よね子	10,000	【関東甲信越支部扱い】	
小沢源直	1,000	須永道子	500,000	藤本浩子	10,000	小川重子	2,000
小野絹子	2,000	関 ふじ	10,000	古川孝人・満子	1,000	【東海支部扱い】	
小原セツ子	5,000	竹内健一	139,969	星 ヤスエ	1,000	長谷川只廣	20,000
笠原 博・静子	20,000	立花和也・八重子	2,000	真下和雄・紀伊	2,000	【関西支部扱い】	
加藤明子	1,000	田中キヨ	3,280	松嶋美々子	3,000	川市 明	6,944
						石附康子	5,000

ご寄付は、現金書留、あるいは郵便振替口座「東京00130-6-16468」をご利用ください。
いずれの場合も、「お名前」「会員番号」と送金の目的が「寄付」であることをお書き添えください。
皆さまのご協力、ご支援をお待ちしております。

第6回日本リビングウイル研究会

テーマ

LW個別性への展開 —最期まで自分の意思で生きる

日時 2017年6月24日(土) 午後1時～4時半

会場 東京大学伊藤国際学術研究センター（地下2F）
伊藤謝恩ホール（東大構内、赤門横、東京都文京区本郷7-3-1）

定員 400人（事前申し込みは不要）、無料

スケジュール

○コーディネーター 満岡 聰（医師、日本尊厳死協会九州支部「さが」会長）

○講演（午後1時15分）

「諸外国の制度とその可能性」 岩尾總一郎代表幹事

「日本における後見人制度とその限界」 松隈知栄子さん（弁護士、名古屋）

○パネルディスカッション（午後2時40分）

身寄りのない認知症のおばあちゃんが、がんになってしまいました。彼女のこれまでの人生の物語を紡ぎながら、「その人が希望する生きかた」を最後までどう支えるかを、会場の参加者からの発言を交えて議論を深めます。

発言者 松隈知栄子さん（弁護士）

鈴木 央さん（医師、東京）

鐘ヶ江寿美子さん（認知症の人と家族の会佐賀県支部理事、医師）

上野幸子さん（佐賀市在宅医療介護連携支援センター相談員、看護師）

あかね・シャボットさん（オランダ）



■開催に関する最新情報は
協会ホームページでご確認ください。

<http://www.songenshi-kyokai.com>

LWのひろば

漱石の予言

洞彰一郎 76歳 千葉県

ことは、夏目漱石の生誕150年を迎えます。

日本の近代社会を風刺する名作を残し、現代に警鐘を鳴らした文豪であることは言うまでもありません。

死の前年に書かれた『硝子戸の中』で、……安らかな眠りに赴むこうとする病人に、わざと注射の針を立てて、患者の苦痛を一刻でも延ばす工夫を凝らしている。こんな拷問に近い所作……とつづきますが、漱石は100年前に尊厳死問題に触れています。

ここでは尊厳死について、肯定も否定もされないまま終わっています。

しかし、漱石が最期に残した「則天去私」という言葉から、人為的な延命治療が肯定されているとは思えません。

昨秋、漱石の英国留学時の資料を展示する「ロンドン漱石記念館」は、開館から32年を経て、惜しくも幕を閉じるようになりました。

お願いしたい法整備

上村美智留 54歳 東京都

昨年まで7年間、私は特別養護老人ホームの看護師として働き、約

100人を看取りました。当時の理事長の「どうしても看取り介護を立ち上げたい」との強い思いに、看護系大学の教授の座を捨て、ベッドサイドケアの最前線に合流しました。

30数年前、循環器急性期病院で働いていた新人看護師の頃は、「どんなことがあっても命を助ける」という使命感がありました。緊急搬送されてくる患者さんのほとんどが救命率の低い心筋梗塞で40〜50歳代。家族の大黒柱でもあったからです。

そして30年後、医療は高度化し救命率は高齢者でも高くなりました。

しかしその結果、そこには、管だらけで余生をベッドの上で暮らす姿や、死に場所を求めて病院や施設を転々とする「死に場所難民」の姿がありました。そんな状況に厚生労働省も住み慣れた場所で最期まで暮らすという地域包括ケアシステムに本腰を入れ始めましたが、唯一未完成なのが、「尊厳死の法整備」です。いまだ本人の希望や意思の尊重、家族の要望、医師の死生観や訴訟への恐怖などの未熟さを実感しています。

そこで私は日本尊厳死協会の終身会員となりました。「未来は誰にもわからない。だから今を一生懸命に

生きる。でも、せめて死に際は見守ってほしい」と、家族には言っています。

元気な記憶のままで

小堀雄三 74歳 神奈川県

同世代の多くの仲間は、病気で苦しんで死ぬより「ピンコロ」で逝きたいと願っています。そのため健康寿命を長くしようという運動が関心を集めています。統計によれば、健康寿命を長くしても要介護期間はわずかに短くならず、健康寿命が延びたぶんだけ平均寿命が延びるだけだそうです。すなわち健康寿命を延ばしても人生の最後の8〜10年くらいは、要介護の生活を送らなければなりません。

この要介護期間を、なんとかパスして人生を終わりたい。医療費、介護費をかけて無理やり長生きさせるばかりが福祉とは思いません。

母の足の点滴に思う

吉田力造 71歳 大阪府

私の母は、80歳を超えたところから「私ほど幸せな者はいない。あとは

出られるようになりました。

息子は転院を繰り返すたびに、首をかしげるようなところに移り、最後は日も当たらない個室で時間がくれば点滴を受け、褥瘡がいつぱいできていました。顔もずいぶん変わり、病院に行きたくない日も、顔を見たくない日もありました。息子の死から数年たったある日、看護職の妹から「尊厳死協会」のことを知り、入会しました。

日も当たらない個室で、握り返してもくれない手を握り、息子の好きだったCDを聴きながら、独り言を何年もつぶやいていた私でした。

日の当たらない個室で

土崎幸子 72歳 愛知県

息子が19歳の時に交通事故に遭い、意識不明のまま5年近くの闘病生活の末に旅立ちました。生きているのが不思議なくらいの重大事故でした。毎日毎日、今日こそ意識が戻るのではと、気が変になるくらい毎日でした。

同級生の姿を見れば、なぜうちの息子がと世の中を恨みました。何年か経つうちに、息子の同級生に会っても心が騒がなくなり、パートにも

春色に静かに染まる 狭山丘陵の湿地

撮影／高橋美保さん
(関東甲信越支部)

八重樫先生のここがポイント

新緑に覆われた里山を
さりげなく撮っています。
この場の空気感が感じられ、
じっと見入ってしまいます。



ぼっくり寺にお参りするだけ」と言っていたので、母の最期は胃ろうなどの延命治療を施さずに穏やかな最期をと思っていました。その母が92歳になって心臓病で入院したとき、長期の入院は母の望むところではないと思い、自宅で妻と一緒に介護をしました。

訪問看護師の毎日の点滴が、左腕の注射から右腕に、さらに左腕へ。

編集部より

● 投稿の募集

テーマは「私の入会動機」「一人暮らしの知恵」など自由。800字以内。
手紙またはファクス(03-3818-6562)、メール(info@songenshi-kyokai.com)で。

● 写真の募集

7月号に相応しい写真を。数年前の撮影も可。データをメール送信(アドレスは同上)、またはプリントを郵送。選者は日本写真家協会の八重樫信之氏です。いずれも、協会本部会報編集部宛に、「ひろば投稿」と明記のこと。締め切りは5月15日です。

関東甲信越支部

☎ 03-5689-2100 ✉ kantou@songenshi-kyokai.com

《地域サロン》のお知らせ

(参加無料・予約不要・先着順です)
本郷はちょっと遠い、という方はこちらにどうぞ
皆様方の地元でも是非地域サロンの開催を！
⇒お問い合わせは支部まで

| 地域サロンin向ヶ丘遊園

日程◎4月27日(木)午後2時～4時
会場◎川崎市多摩市民館第1会議室
小田急線向ヶ丘遊園駅北口下車、徒歩5分

| 地域サロンin武蔵小杉

日程◎5月25日(木)午後2時～4時
会場◎川崎市中原市民館第1会議室
JR南武・横須賀線、東急東横・目黒線武蔵小杉駅下車、徒歩3～5分

| 地域サロンin京成大久保

日程◎6月28日(水)午後1時半～3時
会場◎習志野市市民プラザ大久保
京成本線大久保駅下車、徒歩10分

| 地域サロンin宮前平

日程◎6月29日(木)午後2時～4時
会場◎川崎市宮前市民会館 第3会議室
東急田園都市線宮前平駅下車、徒歩10分

| サロンin本郷へお越し下さい。

地域サロンと内容は同じです。お茶を飲みながら、皆さんでお話をする集まりです

日程◎4月14日(金)、22日(土)午後1時半～3時
5月12日(金)、27日(土)同じ
6月9日(金) 同じ。※24日(土)は協会の研究会のため開催しません。
会場◎関東甲信越支部事務所(本部事務所内)
地下鉄丸ノ内線または大江戸線の本郷三丁目駅下車、徒歩1分

こちら参加は無料ですが、電話予約が必要です。



関東甲信越支部藤沢出前講座

2016年11月29日、神奈川県藤沢市の会場は参加者が多く、テーブルは二重の「口」の字に。

会員になっても
LWの勉強は
続きます
ぜひご参加を

北海道支部

☎ 011-736-0290 ✉ hokkaido@songenshi-kyokai.com

| 公開講演会in札幌

日程◎6月4日(日)午後2時
会場◎札幌エルプラザ 3階ホール
札幌市のJR札幌駅北口近く

講演「訪問診療と看取り」

講師◎柴田岳三氏 緩和ケアクリニック恵庭院長
定員◎300人 無料、一般の方もどうぞ

| おしゃべり広場

日程◎4月18日、5月16日、6月20日。
いずれも火曜日午前10時～正午
会場◎札幌エルプラザ4階研修室
それぞれ先着20人。予約は不要です。

| 函館講演会

日程◎7月2日(日)午後1時
会場◎函館市民会館 大会議室

講演「看取り」(仮題)

講師◎川口篤也氏
函館陵北病院 総合診療科医師

定員◎100人 無料 お問い合わせどうぞ

| 意見交換会

「尊厳死について」をテーマに、
川合昇・支部顧問を囲んで

日程◎5月16日(火)午後2時～3時半
会場◎北広島市芸術文化ホール 2階会議室
定員◎30人、問い合わせは支部事務局に

東海支部

☎ 052-481-6501 ✉ tokai@songenshi-kyokai.com

| リビングウイール懇話会
in熱海

日程◎4月22日(土)午後1時半～
会場◎起雲閣・音楽サロン(定員150人)
熱海市昭和町4-2 (☎0557-86-3101)

報告「尊厳死について」

講師◎小林司(東海支部長)

講演「救急搬送と尊厳死」

講師◎上原燈紀子さん(国際医療福祉大学熱海病院
内分泌代謝科・医師)

意見交換

日本医師会生涯教育認定講座

後援◎静岡県医師会、熱海市医師会、中日新聞東
海本社、静岡新聞、静岡放送、熱海新聞

| 地域サロン

日程◎4月26日(水)午後1時半～3時
会場◎青木記念ホール(名古屋市中村区中村中町
3-30、地下鉄中村公園駅徒歩5分)

尊厳死、終末期医療、在宅介護などで日ごろ感じたり、疑問や不安に思っていることを、お茶を飲みながら語り合いませんか。一般の方も歓迎です。参加希望者は支部へ連絡の上、お越し下さい。

【青木記念ホール】

市民派の弁護士として活躍し、日本尊厳死協会の副理事長を務めた青木仁子さん(78)が、1980年に自宅を建てる際、自らも参加する愛好家らの管弦楽団の練習場所にと1階の半分以上をホールにした。60人ほどが入れる広さで、近隣の老人会や古典を楽しむ会の会合、協会東海支部の会議や催物などに利用されている。

東北支部

☎ 022-217-0081 ✉ tohoku@songenshi-kyokai.com

| 尊厳死 公開講演会

テーマ「知らないは大変ですよ
—延命措置と緩和ケア—」

日程◎6月18日(日)午後1時半～3時半
会場◎仙台市福祉プラザ「ふれあいホール」
(地下鉄南北線「五橋」下車、徒歩3分)

講師◎山川真由美氏
山形大学医学部附属病院
疼痛緩和医療部長・
東北支部理事

定員◎300人

一般の方もどうぞ(無料)
問い合わせは支部へ

| 第24回仙台駅横
リビング・ウイール交流サロン

テーマ「〈老人は75歳から〉
新提言に納得ですか」

日程◎4月21日(金)午後2時～3時半
会場◎「せんだいアエル」6階特別会議室
(JR仙台駅西口、徒歩2分)

お誘い合って、どなたでもどうぞ。無料
次回「交流サロン」は7月21日(金)、場所、時間は
今回と同じです

[会]は会員医師

医療施設名	診療科	医師名(敬称略)	施設所在地	電話
こころのホスピタル 古川グリーンヒルズ	精神科	飯島俊彦 会	宮城県大崎市古川西館3-6-60	0229-22-1190
村岡外科クリニック	外科	村岡正朗	宮城県気仙沼市田中前4-4-7	0226-23-3990
田村クリニック	内科・消化器科・外科	田村清明	東京都世田谷区粕谷4-15-1	03-5313-5213
給田ファミリークリニック	内科・小児科	池亀康夫	東京都世田谷区給田3-26-6	03-5315-5511
JCHO東京新宿 メディカルセンター	呼吸器内科	清水秀文	東京都新宿区津久戸町5-1	03-3269-8111
利根町国保診療所	内科	中澤義明	茨城県北相馬郡利根町羽中200	0297-68-2231
みらい平クリニック	内科・神経内科・リハビリテーション科	小松崎八寿子	茨城県つくばみらい市陽光台3-11-4	0297-38-4023
こだま在宅クリニック	内科	児玉智之	茨城県つくば市筑穂2-7-1 ボヌールリュミエールI 101	029-896-3760
宮崎クリニック	内科	宮崎三弘	茨城県土浦市藤沢964-2	029-830-6800
医療法人つくば 在宅クリニック	内科・外科	渡辺拓自	茨城県つくば市西大沼637-5	029-886-6123
みなクリニック 内科呼吸器科	内科・呼吸器科・アレルギー科	井上雅樹	茨城県つくば市西平塚318-1	029-850-4159
みなクリニック 内科呼吸器科	内科・呼吸器科・アレルギー科	角 昌晃	茨城県つくば市西平塚318-1	029-850-4159
みなクリニック 内科呼吸器科	内科・呼吸器科・アレルギー科	陶山時彦	茨城県つくば市西平塚318-1	029-850-4159
恒貴会 大和クリニック	内科	木村洋輔	茨城県桜川市大国玉2513-12	0296-58-7788
宇都宮協立診療所	内科	関口真紀	栃木県宇都宮市宝木町2-1016-5	028-650-7881
医療法人社団 大友会 みやの杜クリニック	内科・外科・小児科・ 整形外科	大宮安紀彦	栃木県宇都宮市陽東2-4-5	028-683-7811
済生会宇都宮病院	緩和ケア科	粕田晴之	栃木県宇都宮市竹林町911-1	028-626-5500
医療法人創生会 真岡西部クリニック	内科・精神内科・胃腸科・麻酔科・ 外科・循環器科・小児科・呼吸器科	趙 達来	栃木県真岡市長田602-2	0285-82-2222
おやま城北クリニック	総合診療	太田秀樹	栃木県小山市喜沢1475-328	0285-24-6565
長島医院	内科	長島 徹	栃木県佐野市葛生東1-10-27	0283-84-1108
小倉医師会通りクリニック	外科	小倉重人	栃木県佐野市植上町1752-2	0283-27-2775
医療法人社団 友志会 ライフケア・クリニック希望	内科	山路義生	栃木県下都賀郡野木町友沼5118-1	0280-56-1199
那須塩原クリニック 健康増進センター	在宅医療	黒崎史果	栃木県那須塩原市前弥六51-1	0287-67-1570
緩和ケア診療所いっぽ	ペインクリニック・緩和ケア	小笠原一夫	群馬県高崎市京目町790	027-353-3353
医療法人かがやき 後藤クリニック	内科・外科・胃腸科	後藤興四之	群馬県邑楽郡邑楽町篠塚3076-1	0276-70-2233
うめやま医院	外科・泌尿器科	梅山知一	群馬県高崎市連雀町113	027-328-5500
医療法人 優仁会 こだまクリニック	内科	小玉 仁	群馬県高崎市石原町3225	027-27-5566
医療法人 木暮医院	内科	木暮正美	群馬県前橋市清野町104-1	027-251-9101
江木町クリニック	外科・胃腸科・内科	中屋光雄	群馬県前橋市江木町98-5	027-263-1101
伊藤内科医院	内科・呼吸器科・循環器科・胃腸科	伊藤雄一	群馬県前橋市下小出町2-49-16	027-232-0537
医療法人 宏愛会 はやぶさクリニック	内科・循環器科・老年病科	笠原浩一郎	群馬県前橋市小坂子町102-1	027-264-1113
川田クリニック	内科・皮膚科・泌尿器科・糖尿病内科	川田敏夫	群馬県太田市由良町1622-11	0276-33-7755
吉田内科クリニック	内科	吉田京介	群馬県館林市楠町1182-1	0276-70-7117
医療法人コスモス会 コスモス在宅クリニック	内科・総合診療科	清水隆一	長野県長野市若里3-10-40 若里かんかん一番館2F	026-217-6990
クリニックコスモス長野	循環器科	清水 健	長野県長野市小島田町380	026-285-2671
たなべ診療所	内科・小児科	田邊 哲	長野県南佐久郡佐久穂町高野町730-1	0267-86-1186
さかき生協診療所	内科	松澤伸洋	長野県埴科郡坂城町中之条1032	0268-82-0101
(医) 村のふくろう 小見山医院	内科・循環器内科・ 消化器内科・病理診断科	小見山祐一	長野県松本市岡田松岡512-1	0263-46-8080
のだ内科クリニック	内科・循環器科	野田嘉明	山梨県甲府市富士見1-7-35	055-253-2119
長田在宅クリニック	内科・外科・呼吸器科・神経内科	長田忠大	山梨県甲府市西下条町13	055-242-3700
竜王ペインクリニック	麻酔科・整形外科	長嶺教光	山梨県甲斐市大下条1600-5	055-298-6666
恵信甲府病院	内科・小児科・臨床検査科	横山 宏	山梨県甲府市上阿原町338-1	055-223-7333
上條内科クリニック	内科	上條武雄	山梨県上野原市大野1284	0554-66-1006
在宅緩和ケアクリニック きずな	内科・緩和ケア内科	平原克己	新潟県上越市下門前1745	025-520-8336
医療法人社団 ひらはら内科クリニック	内科・小児科・アレルギー科・リウマチ科・ 放射線科・呼吸器科・心療内科	平原克己	新潟県上越市名立区名立大町196	025-537-2001

関西支部

☎ 06-4866-6365 ✉ kansai@songenshi-kyokai.com

第13回サロン交流会

テーマ「あなたらしい、穏やかな最期を
迎えるために」

日程◎4月25日(火) 午後1時半～ 3時半

会場◎関西支部事務所

定員◎15人(要予約、支部まで)

担当の小澤和夫支部顧問が30分ほどお話をした
後、自由に話し合います。

定例サロンへのお誘い

日程◎第2、第4火曜日午後1時半～4時

4月11日、25日

5月9日、23日

6月13日、27日

会場◎関西支部事務所

協会のこと、終末期のこと、リビング・ウィルのこ
と、おひとりさまの生き方のこと……支部理事と
お茶を飲みながらおしゃべりしませんか。予約不
要です。お気軽にお越しください。

関西支部
事務所の案内

大阪市淀川区宮原4-1-16新大阪北ビル7階
JR新大阪駅(地下鉄新大阪駅は3F)から徒歩5分。
御堂筋に出ると北側に見える屋上にLIXILのオレン
ジ色の看板の見えるビルです

※関西支部では業務推進のためサ
ポーターを若干名募集しています。
会員の方であれば、どなたでも
応募できます。詳細は事務所まで

四国支部

☎ 089-993-6356 ✉ shikoku@songenshi-kyokai.com

サロン・喫茶去だんだん 懇談会

お茶を飲みながら、それぞれのテーマについ
て話し合しましょう。

4月7日(金) あなたの大切なものは何ですか

5月19日(金) よりよく生きるためのヒント

6月2日(金) 感動した言葉

いずれも金曜日の午後1時半～3時半、松山市の
支部事務所

趣味あれこれ会

絵手紙、俳句、百人一首などを楽しんでいます。

日程◎4月21日、5月19日、6月16日。

いずれも金曜日の午後1時半～3時半

会場◎松山市の支部事務所。気軽にお立ち寄り下
さい。

九州支部

☎ 092-724-6008 ✉ kyushu@songenshi-kyokai.com

かごしま公開講演会

日程◎6月25日(日) 午後2時～4時

会場◎かごしま市民福祉プラザ 5階大会議室
(鹿児島市山下町15-1)

講演「緩和医療を受ける患者様の
尊厳について」

講師◎松下格司
鹿児島大学病院緩和ケアセンター長
鹿児島大学病院緩和ケアチーム特任准教授

定員◎200人、無料

後援◎鹿児島県医師会、鹿児島市医師会

問い合わせ：協会のかごしま事務局(五反田内科ク
リニック内、井上) ☎099-259-2038

医療相談(通話無料)

0120-979-672

月・水・金曜日 午後1時から5時

協会宛メール(✉ soudan@songenshi-kyokai.com)でも受け、役員医師がお答えします。

医療施設名	診療科	医師名(敬称略)	施設所在地	電話
めのクリニック	(在宅医療) 内科・外科・小児科	米野壽昭	大分県大分市明野高尾3丁目1番地の1	097-551-3220
吉田胃腸科、外科、肛門科	胃腸科・外科・肛門科	吉田正樹	大分県大分市大字城原1769-9	097-593-3511
若林脳神経外科クリニック	脳神経外科	若林礼浩	大分県大分市坂市中央3丁目13-29	097-511-1556
諏訪の杜病院	人工透析内科・リハビリテーション科	武居光雄	大分県大分市津守888番地の6	097-567-1277
大南クリニック	内科・外科	阿南敏郎	大分県大分市中判田1864番地	097-597-6633
医療法人優心会 ハートクリニック	内科	小野隆宏	大分県大分市光吉台17-280	097-568-5446
横井内科クリニック	内科	横井忠滋	大分県別府市鶴見園町5組	0977-26-6111
馬場医院	外科・内科	馬場欽也	大分県別府市南立石2区6組	0977-23-2833
医療法人 心和我 なごみ診療所	一般内科、呼吸器内科	向井史孝	大分県別府市山の手町9番39号 山の手ライフガーデン内	0977-22-1580
医療法人 真幸会 宮崎内科	一般内科・(神経内科)	宮崎幸雄	大分県別府市青山町10-27	0977-24-2455
武井医院	内科・外科	武井雅典	大分県別府市幸町11-20	097-24-3411
新森内科医院	内科	新森義信	大分県別府市石垣東5丁目1番25号	0977-25-5261
別府中央病院	外科	内田一郎	大分県別府市北的ヶ浜5-19	0977-24-0001
別府中央病院	外科	田村洋一	大分県別府市北的ヶ浜5-19	0977-24-0001
渡部内科循環器科クリニック	循環器内科	渡部純郎	大分県別府市末広町6番31号	0977-23-5800
こうぎきクリニック	一般内科	甲原芳範	大分県大分市大字本神埼251-8	097-576-1782
(医)悠久会 いしばしの里クリニック	内科・泌尿器科	湯野悦雄	大分県宇佐市院内町櫛野167番地の1	0978-42-6071
(医)悠久会 いしばしの里クリニック	内科・泌尿器科	和田瑞隆	大分県宇佐市院内町櫛野167番地の1	0978-42-6071
(医)悠久会 いしばしの里クリニック	内科・泌尿器科	堀川 剛	大分県宇佐市院内町櫛野167番地の1	0978-42-6071
姫島村国民健康保険診療所	地域総括	三浦源太	大分県東国東郡姫島村1560-1	0978-87-3221
菅原内科杵築	内科	菅原尚美	大分県杵築市南杵築1947	0978-63-5588
池田医院	内科・肛門科・外科	池田直道	大分県佐伯市上岡木戸ノ瀬1258番地-1	0972-25-1177
柚須医院	内科・小児科	柚須 慎	大分県竹田市大字竹田1810-1	0974-63-2016
医療法人 孝寿会 伊藤医院	内科・消化器科・循環器科・呼吸器科・リハビリテーション科	伊藤 恭	大分県竹田市直入町大字長湯7985番地	0974-75-2222
ゆずの木クリニック	内科	桑野慎一郎	大分県由布市湯布院町川上2713-2	0977-85-4625
医療法人 人昭会 おぞきホームケアクリニック	循環器科・内科・消化器科・呼吸器科・在宅医療	尾崎任昭	大分県由布市庄内町庄内原828番地1	097-582-0013
天心堂 おおの診療所	内科・麻酔科	石丸 修	大分県豊後大野市大野町田中2-9	0974-34-3331
麻生医院	内科・呼吸器科・アレルギー科	麻生真佐	大分県豊後大野市緒方町下自在168	0974-42-2023
清川診療所	内科	坪山明寛	大分県豊後大野市清川町砂田1877-4	0974-35-3561
ニコニコ診療所	一般外科	辛島篤吉	大分県豊後大野市三重町小坂4169-1	0974-22-7776
メディカルシティ 東部病院	外科	東 秀史 会	宮崎県都城市立野町3633-1	0986-22-2240
メディカルシティ 東部病院	循環器科	小林浩二	宮崎県都城市立野町3633-1	0986-22-2240
医療法人 玉水会 玉水会病院	内科	松野浩一	鹿児島県鹿児島市下伊敷1-1-5	099-223-3330
医療法人 玉水会 玉水会病院	内科	長友由紀子	鹿児島県鹿児島市下伊敷1-1-5	099-223-3330
医療法人 玉水会 玉水会病院	内科	永友知澄	鹿児島県鹿児島市下伊敷1-1-5	099-223-3330
医療法人 玉水会 玉水会病院	内科	米 佳子	鹿児島県鹿児島市下伊敷1-1-5	099-223-3330
医療法人 玉水会 玉水会病院	内科	瀬戸口美波	鹿児島県鹿児島市下伊敷1-1-5	099-223-3330
医療法人 玉水会 玉水会病院	内科	向井 尊	鹿児島県鹿児島市下伊敷1-1-5	099-223-3330
医療法人ナカノ会 ナカノ在宅医療クリニック	内科	中野一司	鹿児島県鹿児島市伊敷台六丁目27番地10	099-218-3300
医療法人泰保会 こしのクリニック	外科・内科	越野保人	鹿児島県鹿児島市城西1丁目2-22	099-256-5055
医療法人天翔会 五反田内科クリニック	小児科	藤山りか	鹿児島県鹿児島市薬師二丁目7番62号	099-259-2038
医療法人天翔会 五反田内科クリニック	消化器外科	島元裕一	鹿児島県鹿児島市薬師二丁目7番62号	099-259-2038
医療法人平和会 ひさまつクリニック	内科・リハビリテーション科	久松憲明	鹿児島県鹿児島市上之園町21-7 湖城ビル1F	099-298-1230
鹿児島市医師会病院	外科	大迫政彦	鹿児島県鹿児島市鴨池新町7番1号	099-254-1125
医療法人 慈風会 厚地リハビリテーション病院	神経内科	山中英賢	鹿児島県鹿児島市東郡元町11番6号	099-252-5525
生協往診クリニック	内科(在宅)	木田博文	鹿児島県鹿児島市谷山中央五丁目14-19 日高ビル1階	099-230-7770
社会福祉法人 恩賜財団済生会鹿児島病院	内科	松尾真里	鹿児島県鹿児島市南林寺町1番11号	099-223-0101

おわび 164号掲載第86報で「上門 ー」医師とあるのは「上間 ー」医師の誤りでした。訂正して再掲載します。

シャロンクリニック	内科	上間 ー 会	沖縄県那覇市首里石嶺町4-238-2 メディカルいしみな3F	098-884-1300
-----------	----	--------	-----------------------------------	--------------

医療施設名	診療科	医師名(敬称略)	施設所在地	電話
医療法人社団 内山医院	内科	内山一晃	新潟県上越市吉川区下町1161-1	025-548-2400
五十嵐医院	内科	五十嵐昭夫	新潟県新潟市西蒲区小吉1074-1	025-375-5670
ひろさわ内科医院	内科	廣澤利幸	新潟県新潟市中央区東湊町通2545-24	025-25-8880
在宅緩和ケアクリニック 川岸町	内科・緩和ケア内科	塚田裕子	新潟県新潟市中央区川岸町2-11-14	025-232-8880
潟東クリニック	内科・外科・消化器内科・乳腺外来	福田喜一	新潟県新潟市西蒲区三方138-1	0256-86-1118
服部医院	整形外科・内科・リウマチ科	服部真紀	静岡県熱海市網代462-8	0557-68-0050
するがホームクリニック	内科	齋藤勝也	静岡県富士市依田橋町11-9	0545-51-3001
杉浦内科	内科	杉浦浩策	静岡県静岡市駿河区みずほ4-10-10	054-257-7799
前嶋内科	内科・循環器内科	前嶋満弘	静岡県浜松市北区三方原町1153-17	053-438-4655
あおい在宅診療所	内科	木股貴哉	愛知県名古屋市区樋の口町1-15 ホーフビル4F	052-784-7263
(医) 高田内科医院	内科・循環器内科・小児科	高田康夫	愛知県名古屋市区幅下1-11-24	052-571-0124
(医) 細川外科クリニック	外科・内科	細川秀一	愛知県名古屋市中村区西米野町1-75-2	052-481-9921
うわとこクリニック	内科	上床邦彦	愛知県名古屋市区大曽根2-7-18	052-991-4602
吉田クリニック	内科・外科	吉田 淳	愛知県名古屋市区千種区上野一丁目2番7号	052-723-0018
かわな病院	内科	山田晴生	愛知県名古屋市区昭和区山花町50	052-761-3225
宇田ファミリークリニック	内科・小児科・循環器内科	宇田哲也	愛知県みよし市園原4丁目1-4	0561-35-1311
やすい内科	内科	安井 直	愛知県大府市桜木町二丁目192	0562-44-6521
たんぼぼクリニック	内科・呼吸器内科	服部 努	愛知県長久手市区子田15-155	0561-42-4099
(医)勝川医院 六軒屋クリニック	内科・外科	浅井光広	愛知県春日井市区六軒屋町西三丁目13-20	0568-89-0015
(医) 勝川医院	内科・循環器科・消化器科	鵜飼正俊	愛知県春日井市区若草通1丁目12番地	0568-31-2308
(医) 勝川医院	内科・外科	市川敏男	愛知県春日井市区若草通1丁目12番地	0568-31-2308
宮地クリニック	外科	宮地洋二	愛知県あま市篠田小塚48	052-444-1064
(医)浅野医院	内科	浅野明彦	岐阜県不破郡関ヶ原町関ヶ原1102-1	0584-43-0201
毛利内科クリニック	内科	毛利喜洋	岐阜県高山市桐生町5-338	0577-37-7625
なかしまクリニック	内科(在宅訪問診療応需)	中島鉄夫	岐阜県高山市昭和町3丁目180-1	0577-62-8820
(医)坂井橋クリニック	内科	廣田久佳	三重県桑名市区星川1011-1	0594-31-4553
古田医院	胃腸科・外科・内科	古田紘一	三重県桑名市区大仲新田屋敷327-2	0594-31-8555
西城外科内科	外科・内科	西城英郎	三重県鈴鹿市区長太旭町4-23-23	059-385-5511
まずずがわ神経内科クリニック	神経内科・内科・東洋医学	真鈴川 聡	三重県鈴鹿市区飯野寺家町817-3	059-369-0001
在宅医療クリニックゆめ	外科・内科	木田英也	三重県松阪市区田村町六才476-1	0598-25-1130
鈴鹿クリニック	内科・外科	早川弘輝	三重県鈴鹿市区伊船町2229-8	059-371-6800
越智医院	総合診療	越智晶俊	三重県伊勢市区小俣町明野726-1	0596-37-2275
瀧原診療所	総合	西川 学	三重県度会郡大紀町滝原1516-3	0598-86-3122
大阪北 ホームケアクリニック	訪問診療、緩和ケア	白山宏人	大阪府大阪市区淀川区西宮原1丁目8番24号	06-6350-0118
医療法人旭医道会 中村クリニック	内科・循環器科	中村俊紀	大阪府大阪市区住之江区粉浜1丁目23-1	06-4701-2558
医療法人旭医道会 中村クリニック	内科・循環器科	兼高武仁	大阪府大阪市区住之江区粉浜1丁目23-1	06-4701-2558
医療法人旭医道会 中村クリニック	内科・循環器科	平石泰三	大阪府大阪市区住之江区粉浜1丁目23-1	06-4701-2558
医療法人旭医道会 ひとねクリニック	内科・循環器科	小林 亨	大阪府岸和田市区土生町4丁目3番1号 リハープB1-2F 205	072-427-5868
医療法人三寿会 御崎クリニック	外科・循環器科	櫻井 温	大阪府大阪市区住之江区御崎1-6-7	06-6682-8899
医療法人侑生会 太田医院	内科	太田淳介	大阪府堺市区南区三原台1-2-2 マスターズステージ泉ヶ丘1F	072-291-5551
川村クリニック	内科・麻酔科・緩和ケア科	川村治雄	京都府京都市北区小山東大野町48-1	075-415-7699
信和会東山診療所	内科	水野隆元	京都府京都市東山区今熊野宝蔵町43	075-561-5500
ホームホスピス ひばりクリニック	内科・麻酔科	森井正智	奈良県奈良市区三碓9-23	0742-49-8700
医療法人良翔会 ちゅうわ往診クリニック	疼痛緩和内科	河田安浩	奈良県橿原市区内膳4-43-6	0744-29-6661
坂口内科	内科	坂口健太郎	和歌山県紀ノ川市区貴志川町井ノ口577-1	0736-64-7801
安川診療所	泌尿器科・内科	安川 修	和歌山県岩出市区西国分688-1	0736-63-1688
医療法人さくら会 さくらクリニック	内科・精神科・精神内科 他	西願誠二	和歌山県海南市区名高140-1	073-484-5001
鳥取大学医学部附属病院	緩和ケア科	吉本美和	鳥取県米子市区西町36-1	0859-38-6292
(医)牛尾医院亀の甲クリニック	内科・胃腸科・呼吸器科・外科	水内知子	山口県下関市区長府亀の甲1-2-1	083-245-2151
渡辺内科	内科	久下聖子	大分県大分市区生石2-1-5	097-535-1884
平田医院	内科・循環器科	平田雅敬	大分県大分市区王子中町9番37号	097-536-3322
井野辺病院クリニック	内科・循環器内科	井野邊義人	大分県大分市区府内1丁目3-23	097-533-0255
医療法人 安癒会 伊藤田クリニック	ペインクリニック・内科	伊藤田雄三	大分県大分市区東春日町8-9	097-534-0010

●本部

〒113-0033
東京都文京区本郷2-27-8
太陽館ビル501
TEL 03-3818-6563
FAX 03-3818-6562
メール
info@songenshi-kyokai.com
ホームページ
http://www.songenshi-kyokai.com
郵便振替口座
東京00130-6-16468

●北海道支部

〒060-0807 札幌市北区
北7条西2丁目6 37山京ビル801
TEL 011-736-0290
FAX 011-299-3186

●東北支部

〒980-0811 仙台市青葉区一番町
1-12-39 旭開発第2ビル703号室
TEL 022-217-0081
FAX 022-217-0082

●関東甲信越支部

〒113-0033 東京都文京区
本郷2-27-8 太陽館ビル501
TEL 03-5689-2100
FAX 03-5689-2141

●東海支部

〒453-0832 名古屋市中村区
乾出町2-7 正和ビル2階
なかむら公園前法律事務所内
TEL 052-481-6501
FAX 052-486-7389

●北陸支部

〒920-0902 金沢市尾張町1-7-1
山崎法律事務所内
TEL 076-232-0900
FAX 076-232-0932

●関西支部

〒532-0003 大阪市淀川区
宮原4-1-46 新大阪北ビル702号
TEL 06-4866-6365
FAX 06-4866-6375

●中国地方支部

〒730-0024 広島市中区
西平塚町2-10
TEL 082-244-2039
FAX 082-244-2048

●四国支部

〒790-0067 松山市大手町1-8-16
二宮ビル3F B
TEL 089-993-6356
FAX 089-993-6357

●九州支部

〒810-0001 福岡市中央区
天神1-16-1 毎日福岡会館5階
TEL&FAX 092-724-6008

各支部HPへのアクセスは
本部HPからのリンクをご利用ください。

尊厳死の宣言書

(リビング・ウイル Living Will)

私は、私の傷病が不治であり、かつ死が迫っていたり、生命維持措置無しでは生存できない状態に陥った場合に備えて、私の家族、縁者ならびに私の医療に携わっている方々に次の要望を宣言いたします。

この宣言書は、私の精神が健全な状態にある時に書いたものであります。

したがって、私の精神が健全な状態にある時に私自身が破棄するか、または撤回する旨の文書を作成しない限り有効であります。

●私の傷病が、現代の医学では不治の状態であり、既に死が迫っていると診断された場合には、ただ単に死期を引き延ばすためだけの延命措置はお断りいたします。

●ただしこの場合、私の苦痛を和らげるためには、麻薬などの適切な使用により十分な緩和医療を行ってください。

●私が回復不能な遷延性意識障害(持続的植物状態)に陥った時は生命維持措置を取りやめてください。

以上、私の宣言による要望を忠実に果たして下さった方々に深く感謝申し上げますとともに、その方々が私の要望に従って下さった行為一切の責任は私自身にあることを付記いたします。

リビング・ ウイルの勧め

日本尊厳死協会は、命の終わりが近づいたら延命措置を望まないで、自然の摂理にゆだねて寿命を迎えるご自分の意思を表したリビング・ウイル「尊厳死の宣言書」を発行、その普及に努めています。

現在11万人を超す方々がリビング・ウイルを持ち、安心した日々を送っています。自然のまま寿命を迎えることは、最期の日々をよりよく生きることであり、今を健やかに生きることにつながります。

お友だちやお知り合いに協会や「宣言書」のことをお伝えいただければと願っています。

事務局から

会費の自動払込の案内 希望者はこちらご連絡ください

協会年会費払い込みには、自動払込制度(金融機関口座から自動引き落とし)制度があります。利用には諸手続きがありますので、ご希望の方は本部事務局まで連絡をお願いします。次の要領で実施しております。

- 対 象 ▶ 希望の会員
- 払 込 日 ▶ 会費払込該当月の28日(4月払込の方なら4月28日に引き落とし)
- 払 込 額 ▶ 会費相当額
- 手 数 料 ▶ 1回の払込に162円(150円+税)のご負担があります
- 取扱金融機関 ▶ 国内ほとんどの金融機関(信金、信組、ゆうちょ銀行、農協含む)
- 領 収 書 ▶ 預金通帳の金額摘要欄に協会名を印字。領収書は発行しない

●なお、これまで同様、コンビニや郵便局での振り込みも可能です。会報が緑色のビニール封筒で届いたら年会費の納入時期です。封筒の表に「年会費払込票在中」と印刷してあります。



今号の1枚
『青麦』

●「10年後の協会」を考える若手座談会を佐賀で取材しました。40、50歳代がほとんどの会場で私が最年長、それも四半世紀もかけ離れた存在でした。協会の「旧弊」に話が及ぶと、会場のまなこがいっせいに私に向くように感じたのは、気のせいだったようです。協会の明日を思う意見がこれほど鮮明に表に出されたことはなく、東京への帰路は軽やかな気分でした。(白井)

●2月から尊厳死協会の会報などの仕事に携わることになりました。私が持っていた協会へのイメージは「意識の高さ」「凛としたもの」などで、たぶん、世間の多くの人もそうでしょうね、きっと。今号で、柳田邦男さん、石飛幸三さんも協会に「超高齢多死社会が迫る」と多くが期待されている」と書いてくれています。そんな期待に応えましょう。よろしくお願いします。(郡司)

Living Will 目次

— 会報2017年4月 No.165 —

- 02 〈10年後の協会〉を見据えて
理事長 岩尾総一郎
- 03 協会への応援メッセージ
柳田邦男 石飛幸三
- 04 特集 〈10年後の協会〉
若手役員の座談会から提言
より有益な組織であり続けるために
- 08 LW受容協力医師制度の展望
- 10 ご遺族アンケートで
示されたこと
- 13 「介護難民」がさ迷う
2025年問題
- 16 インタビュー
俳優 秋野暢子さん
- 20 第6回LW研究会の案内
- 21 ●支部活動 最前線
- 22 ●LWのひろば
- 24 ●支部活動 2017 春～夏
- 27 LW受容協力医師 第87報
- 30 事務局から／編集後記／目次
- 31 尊厳死の宣言書／本部支部一覧
出版案内

裏表紙

協会会員:11万3175人
(2017年3月9日現在)

次号は、
2017年7月1日発行

※本誌記事の著作権は日本尊厳死協会にあります。
引用、転載に関しましては当協会にご相談ください。

編集後記

●「10年後の協会」を考える若手座談会を佐賀で取材しました。40、50歳代がほとんどの会場で私が最年長、それも四半世紀もかけ離れた存在でした。協会の「旧弊」に話が及ぶと、会場のまなこがいっせいに私に向くように感じたのは、気のせいだったようです。協会の明日を思う意見がこれほど鮮明に表に出されたことはなく、東京への帰路は軽やかな気分でした。(白井)